

ふれあい つながり かわら版

山陽中学校ーファシリテーションを使った 知的好奇心を駆りたてる対話のある授業ー

十一月七日(月)に、山陽中学校で、関西大学文学部の岩崎保之教授を講師に、「ファシリテーション」で生徒の知的好奇心を高める授業研修が行われました。

学年や担当教科の枠をこえて

2年生社会科の授業では、「姫路城にエレベーターを設置すべきだろうか。」という問いに対して、資料から読み取った情報をもとに、自分の意見と反対の立場の意見を関連付けて考え、一人一人が姫路城の在り方についてアウトプットしていききました。グループに分かれて生徒が話し合っているの、先生方が手分けして授業記録をしていきました。多くの先生方が授業に携わり、職員一丸となって授業改善に取り組む姿勢に感銘を受けました。



全職員で授業改善について話し合う

授業後には、全員参加で事後研修会が行われました。職員数が多いため、複数の教室に分かれてオンラインで研修が進められました。研究推進担当の先生を中心に、KPT法(Keep・Problem・Try)で授業を振り返っていききました。研修のテーマが「ファシリテーション」ですので、学年や教科の枠をこえて、どの先生方もジヤム

姫路市教育委員会
学校指導課
小中一貫教育・ICT教育推進係
(079)221-2120



して、全体で意見交流を行い、授業改善について活発な話し合いが行われました。

山陽中学校では、校内研修の中心に「ファシリテーション」を掲げるだけでなく、それを小中一貫教育の推進計画書にも記載しています。また、夏休みの小中合同研修会にも岩崎教授を招いて、城陽小・手柄小・荒川小と足並みを揃えて「ファシリテーション」の研修を進めています。

令和五年二月十日(金)には、市内の先生方にも呼び掛け、教育実践研究発表会を予定されています。中学校だけでなく小学校の先生方もぜひ参加していただき、山陽中学校の研修の成果を直接肌で感じ、自身の学校の校内研修に生かしていただきたいと思えます。

四郷学院ー対話力を育成する授業を 創造するSDGs発表会ー

創造するSDGs発表会ー

十一月十一日(金)に四郷学院後期課程にて、ビブリオバトルとSDGs発表会が行われました。

ビブリオバトルは、9年生の代表3名による発表で、身振りを入れたり、落語調で話したり、結末が気になるような構成にして発表したりと、表現豊かにアウトプットしていました。

SDGs発表会では、地球規模の視点から、日本、兵庫県、姫路市と視点を変えていき、最終的に「自分ごと」として問題をとらえる「グローバル(グローバルとローカ



ボードに自身の考えをどんどんアウトプットしていきまいた。個人で意見を書きこんだ後、小グループ、そ

自律した学習者として巣立っていくために

十一月四日(金)、五日(土)に福岡県飯塚市にて、第十七回令和四年度小中一貫教育全国サミットin飯塚が開催されました。飯塚市は施設一体型の小中一貫校(校長が小にも中にもいる)が4校、施設隣接型が1校、施設分離型(姫路市における中学校ブロック)が5校あります。施設一体型の4校は新たに施設を整備した小中一貫校で、最新の設備が整っていました。

その一つである飯塚市立小中一貫校幸袋校(こうぶくろこう)では、全国学力・学習状況調査の結果から課題を把握し、結果が伴わず歩みを止めてしまう児童生徒に対して「挑戦したという事実を大切に、教師も児童生徒も自律した学習者になる」ことを研究テーマに設定していました。中学生が小学校低学年と算数の基礎・基本の計算練習を一緒に行う「結いの日」という時間が設定されており、小学生が中学生にあげられ抱く機会になっていました。また、中学生にとっては、低学年の児童から頼られ、感謝の言葉をかけられることで、自尊心の高まりが表情から見られました。



基調講演では、UCA(変動性・不確実性・複雑性・曖昧性)の時代を生き抜くために、キャリア教育と探究学習が重要で、「児童生徒に転ばぬ先の杖を手に入れさせるのではなく、転んでも立ち上がる力をつける」ことが大切になることが参加者に伝えられました。姫路市でも「児童生徒の学びの循環」が見える授業づくりを目指していきたいと思えます。